

「コロナ対策優等生・台湾の苦境」

歐 元韻

台湾でも今年こそ、経済活動の安定化に向けての仕切り直しがいよいよスタートすると期待されておりましたが、4月に入り、感染者数が急増し始め、5月頭には1日の新規域内感染者が2万人を突破すると、月末には9万人を超える事態になってしまいました。5月27日の新規感染者数94,855人がピークとはなっていますが、今回のハッピーメール作成時の6月15日は、1日の新規感染者と死亡者数がそれぞれ6万9千人弱と143名、6月15日時点での合計累計感染者数は、3,072,432人、合計死者4,546人、死亡率0.14%と発表されております。台湾は過去経験したSARSの時を上回る異常事態に見舞われております。台湾がこの様な状況のため、いくら日本政府が6月10日より台湾からのツアー客を含む外国人観光客（団体旅行のみ）の受け入れを再開しても、台湾政府は依然として団体旅行目的での渡航を認めておりません。

<台湾政府のジレンマ>

諸外国が次々と開放に向けての動きを活発化させていくなかで、台湾政府としても出来るだけ同調した動きで他国に遅れまいとする気運が高まっております。台湾内での経済活動も以前の様な警戒レベルを引き上げての規制等は実施されておらず、今では最低限（隔離、マスク着用等）の規制のみに留められております。新規感染者及び死亡者の発生数から言えば、以前同様警戒レベルを引き上げての経済商業活動、イベント等を自粛するのが一般的ですが、現在こうした措置は行われておりません。身近なところでは、以前はデパート内で従業員や顧客の中からコロナ患者が発生した場合、直ちに全館休館となり消毒作業が実施されておりましたが、現在は休業措置をとらず、消毒のみとなっております。また、今回のコロナ禍で最も痛手を被った旅行、観光業界及び海外旅行を心待ちにしている人々より、一刻でも早く開放に向けて政府が動いて欲しいとの要望がございます。但し一方で、今回の急激な感染状況は未だ収束に向かっていているとは言えず、現時点での開放は時期尚早との見方も多くなっております。他の諸外国が、開放に向けての動きを強めていくなかで、その流れに遅れまいとしながらも、諸外国より遅れてコロナ患者の急激な増加に見舞わ

れた台湾としては、他国以上に開放政策に対しては、慎重に対処せざるを得ないというところが現実です。

こうした台湾政府のジレンマを見透かしてか、有識者のなかでも、早ければ今年の8月頃には対外的開放に動くという見方をしていることがマスコミ上に紹介されております。因みに6月15日より、台湾入国後の検疫期間を3日に短縮、並びに台湾でのトランジットの再開が発表されております。



【トランジット再開実地演習(出所:WEBより桃園空港提供)】

<開放後の期待と希望>

ここからは少し趣を変え、開放後の期待と希望について触れてみたいと思います。感染者数だけを聞くと、確かに気が重くなるのも、止むを得ないところですが、感染者の大多数がワクチン接種のおかげで軽症で済む場合がほとんどなのも事実です。私の友人も感染後は、後遺症もなく普通通りに経過しております。特に若い人達は立ち直りも早く、個人の海外旅行が再開されるのを心待ちにしている人達が沢山います。先日も、台湾の航空会社が今年の冬に利用できる航空券のキャンペーンを行い、一時的に数十万人のアクセスが集中した為、システムダウンを引き起こしたとのニュースが報じられました。開放後は旅行、観光分野で若い世代が活性化に一役買ってくれることを期待しております。

私が広島から台湾に戻る際、広島空港でいつも搭乗者を温かく見守ってくださっていた空港グランドスタッフの職員さんにも、そろそろ再会出来る気がしております。